

3. 手袋

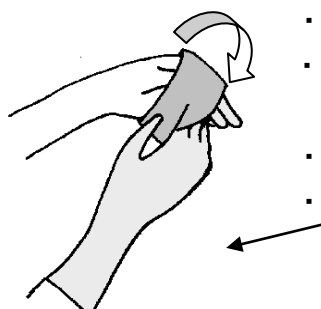
感染予防のポイントは「感染の可能性があるものには直接素手で触らない」ことです。

感染の可能性があるものに触れる場合は、ディスポーザブルの手袋を使用します。

着用が必要な時

- ・血液や体液（唾液・鼻汁・痰など）、傷からの分泌液に触れる時、あるいは触れる可能性がある場合。
- ・感染症、特に疥癬の場合は、身体に触れるケア時に着用。（その他の感染症については血液や体液に触れる時に着用。）

着用時の注意事項



- ・一度使った手袋は必ず捨てましょう。次の人には使わないで！
- ・手袋をしたままで、まわりの物を触らないようにしましょう。
- ・長時間使用して汗をかいたり、清拭時のお湯で手袋の中が湿ってきたら交換しましょう。
- ・穴が開いたり、破れた場合はただちに交換しましょう。
- ・はずす時は、外側の汚れた方を内側にひっくりかえします。

その他

- ・自分の手に手荒れや傷がある場合は、感染から身を守るために手袋を着用しましょう。

★手袋使用後も必ず手洗いをしましょう。

4. マスク

風邪、インフルエンザの飛沫や結核などの飛沫核が、鼻腔・口腔から侵入するのを防ぐため、また、介護者の鼻腔・口腔から排出される飛沫などを飛散させないために着用します。

感染の可能性があるもの（痰や唾液など）が介護者の顔にかかる可能性がある場合もマスクを着用します。

着用が必要な時

- ・肺結核の人に接する場合。
- ・風邪やインフルエンザの人に接する場合。
その他、気管支や肺に病気があり、咳や痰の激しい人に接する場合。
- ・ケアする者が、風邪やインフルエンザなどで咳が出る場合は、相手に移さないために必要です。

着用時の注意事項

- ・綿製のものは細菌を通すので、使い捨てのディスポーザブル紙マスクを使用してください。結核の場合は、結核マスク（N95）が適しています。
- ・マスク着用時は口のみではなく、口と鼻を覆って使用しないと効果はありません

5. エプロン（ガウンの着用）

感染の可能性があるもの（血液や体液、傷口からの分泌液、および排泄物）に、直接介護者の身体が触れるのを防ぐことを目的とし、また、介護者の衣服に付着した感染源を持ち歩かないためにもガウンの着用は有効です。

着用が必要な時

- ①感染症の人に身体的ケアを行う場合で、本人の血液や体液（唾液・鼻汁・痰など）、傷口からの分泌液、および排泄物が自分の身体が触れたり、飛び散る可能性がある場合に使用します。
- ②感染症がない方についても、本人の血液や体液、および排泄物が自分の身体が触れたり、飛び散る可能性がある場合に使用します。

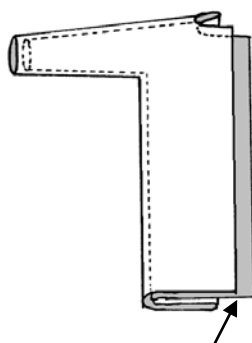
取扱いの注意事項

- ・感染予防として使用するエプロンは、長袖で膝下まで覆うものが適しています。また、素材について、布製は病原体が染み通る場合がありますので、ナイロン製のディスポーザブルエプロンが適しています。使用後はビニール袋に入れて袋の口を結び捨ててください。（焼却）

着脱について

【着用時】

- ・手洗い後、エプロンに両腕を通し、首の後ろでひもを結びます。手は清潔であるので、できるだけエプロンの表側の胸と腹の部分に触れないように気をつけましょう。またひもを結ぶ時にも髪の毛に触れないように注意してください。



表側 (グレー部分)

【脱衣時】（左右は入れ替わっても構いません）

- ・首のひもを解きます。
- ・右手指を左の袖口に手首側から差し入れて袖口を持ち引っ張りながら、左袖を引き抜きます。
- ・右袖の中に脇側から左手を入れ、右手で両袖口を持ったまま裏返すように腕を引きぬきます。
- ・エプロンの外側同士が合わさるように（右袖の中に左袖が入るように）脱ぎます。
- ・エプロンの表側には触れず、両肩の縫い目を合わせて、自分の体より離してひもを結び、フックにかけます。

その他

【ユニフォームとして着用する場合】

- ・衛生に心がけ、洗濯されたしわのない清潔な普通エプロンを着用しましょう。
- ・感染症がない場合は、普通に取扱い問題はありません。